

世田谷区の考え方

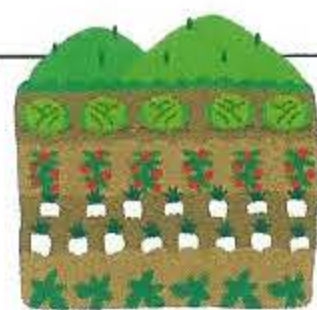
身近な自治体である世田谷区は、喜多見について「風景づくり」を重点的に推進する必要がある区域」だと、「風景づくり計画」2015.4.6の中で、たとえば次のように書いています。



歴史的・文化的資産を活かす

砧地域には喜多見を中心に歴史ある社寺や遺跡、古墳が多くあり、登戸道や筏道などの古道もあります。それらの歴史的・文化的資産の周囲においては、資産に対して建築物の配置や、植栽により空間のつながりを持たせたり、街づくりに資産を活かすなどの工夫を行います。

農の風景との共存



喜多見地区は農地保全重点地区に指定され、農地の保全・育成が図られています。特に喜多見四・五丁目には東京都の「農の風景育成地区」に指定されており、かつての農村風景を再現した次大夫堀公園もあります。農地の周辺で建設行為を行う際には、土やみどりなど田園風景に調和するデザインや素材を採用したり、敷地内緑化や敷地境界を生垣にするなどの工夫をし、農地と建築物などが共存する風景づくりを進めます。

河川から広がる散歩道



野川沿いは地域住民などに憩いと潤いを提供する散歩道としても親しまれています。河川沿いで建設行為等を行う際には、特性を踏まえながら積極的にみどりを配するなど、みどりやみずの連続性を深めます。また、河川周辺の風景資源と連携を図りながら、更に散歩に適した空間づくりを進めます。

みんなのお気に入り

一方、ポンポコが2009年に区民まつりで皆さんに「お気に入り」の場所・風景」を投票していただいたところ、上位3つは以下のようになりました。この結果は、世田谷区の計画に書かれた上の3つの要素とちょうど重なります。

喜多見らしい風景をつくらう！①

「喜多見らしい風景」とは？

喜多見では、相続等にもない農地や樹林地が年々減少し、風景が変化しています。同時に、家を新築したり建て替えたり、新たに住み始めたりすることによって、この町に住む私達自身が、喜多見の風景に影響を与えていることに気づきます。そこでポンポコでは今年度、「喜多見らしい風景をつくらう！」をテーマに、私達自身に無理なく貢献できることはないか、『ポンポコ新聞』や区民まつりの場も使って考えていきたいと思ひます。シリーズ第1回目となる今回は喜多見らしい風景とはどのような風景かを考えてみます。

喜多見らしい風景とは？

喜多見らしい風景とは、この「歴史・文化」「農」「河川」が活きている風景といえそうです。これらを活かすことを意識しながら、自分に係わりのある場所や自宅周りをつくったり、修繕などの機会に可能な範囲で修景していく

と、喜多見の町全体がさらに統一感のある魅力的な町になっていきます。では具体的にどのようなことができるか、次回から考えていきたいと思います。



喜多見大橋から見た野川上流の眺め

第3位



次大夫堀公園民家園

第2位



鎮守の森 氷川神社

第1位

ポンポコ新聞

[Ponpoko News]

第 63 号



=発行=

2016年5月1日

喜多見ポンポコ会議

www.ab.auone-net.jp/~ponpoko

いよいよ開園します

喜多見農業公園



一緒に農作業する方を募集しています

地元農家が数百年にわたり代々受け継いできた畑の一部(喜多見4丁目16番)が、畑のまま「喜多見農業公園」として開園することになりました。

これまでの経緯

これは、喜多見ポンポコ会議が世田谷区の地域風景資産に「慶元寺三重塔の見える風景」として推薦し2002年に選定されたことに始まり、2009年には世田谷区がこの場所を含む喜多見3・4・5丁目を「農地保全重点地区」に指定し、2013年に東京都が喜多見4・5丁目を東京都第一号の「農の風景育成地区」に指定し、3年ほど地元で開催された「農業・農地を活かしたまちづくり検討会」を経て、この度の整備と開園につながったものです。

全国で第一号

この喜多見農業公園については、平成27年に制定された国の「都市農業振興基本法」により整備された農地の、全国で第一号の試みであるとのこと。新鮮で安全な農産物の供給や、子どもや

高齢者などの教育・農業体験・交流、景観保全、災害時の対応など、都市農地には、多様な役割が期待されています。東京都も世田谷区もこの事業には力が入っていて、今後全国で同様の都市農地保全と活用の動きが広がることが予想されています。

NPO法人を設立し、連絡会も設置

この4月には、喜多見農業公園で管理と農業体験イベントを実施していくことを目的として、NPO法人せたがや喜多見農とみどり(理事長・清水篤さん、喜多見4丁目)が設立され、法人として正式に認可を受けました。

さらにこの農業公園に関し、世田谷区と受託事業者、JA、関係団体、このNPO法人で構成する「運営連絡会」が設置され、その第一回会合も4月20日に開催されました。

楽しく農業に触れてほしい

NPO法人せたがや喜多見農とみどりの平野拓巳さん(喜多見6丁目、大学生)は、「本当にオープンな団体なので、多くの方に農業公園に来ていただき、楽しく農業に触れてほしいです」と言っています。

オープニングイベント

5月中旬～下旬予定

マリーゴールド(お花)を植えたり、地元野菜を使ったイベントを計画中です。オープニング後はトマトなどの夏野菜を植える予定です。現在、石ころ拾いをしたり、土壌調査をしてどんな堆肥を入れたら良いかを検討しています。

アジア大好き&ネコ大好き

アジアンキャッツ



狛江市岩戸北4-17-11、木金土日、11-19時

世田谷通り二の橋交差点にある「アジアンキャッツ」は、アジアの雑貨を15年間インターネットだけで商ってきた倉橋さんご夫婦が、昨年4月にオープンしたアジアの雑貨とカフェの店です。

所狭しと並び洋服やバッグは、タイをはじめアジアに暮らすモン族・ヤオ族・ミャオ族・カレン族・ナーガ族・リス族・アカ族・ラフ族など「少数民族の手作り布」で作られたもの。こうした温もりのある繊細で丁寧な手仕事はきっと無くなっていくから、日本に連れて帰り本当に気に入ってくれた人のところに行っておくと、現地を歩いて集めたものです。

カフェには、都会の中の田舎のような喜多見と散歩が大好きという奥様が無人スタンドで見つけた野菜でつくるカレーやケーキなどのメニューがあります。ふらりと一人で来られたお客さん同士が知り合い常連になり「ちょっと離れたリビングみたい」と言う方もいるそうです。アジアに行った時のカフェのように、雑貨を見て触れて、時にはおしゃべりして、気兼ねせず来てくださとのこと。

遠くから静かに見守りましょう

野川のタヌキ



私達の「ポンポコ」は野川のタヌキから付けました

最近また野川で目撃情報を聞くようになりました。でもなぜか「かわいそう」という声をよく聞きます。元気が無さそうに見えてもタヌキは夜行性なので昼間はウトウトしているだけかもしれません。水辺も好きで泳ぐこともでき、魚もカエルも昆虫も食べます。きっと居心地がいいから、そこにいるのです。親が居なくて子どもだけでも、ある程度成長していれば外敵に襲われる心配もありません。タヌキのためには今の環境を維持してあげることが一番大切です。

INFORMATION

事前調査&ごみ拾い

[日時] 5月8日(日) 10:00~12:00

春の野川ガサガサ

[日時] 5月14日(土) 10:00~12:00

[持物] 長靴または濡れてもいい靴

[申込] 喜多見児童館 tel.3417-9151

※ どちらも次大夫堀公園築山横の野川階段集合